

Departure

English Expression

「書く力」から「表現する力」へ

山本万紀子



◀ Departure I を使用した英語表現 I の授業

“Why are you so polite to your seniors even if they are only one year older?” “I think seniors have more experience, so we have to respect them.”

生徒が活発に意見を交換しあう声が聞こえてきます。Departure English Expression I の Lesson 17 を使用した授業の 1 コマです。Departure I には生徒が自然と自分の意見や考えを表現できるような仕掛けが毎レッスン用意されており、授業中のコミュニケーション活動の量が飛躍的に増えました。

本校では、1 レッスンに大体 3 時間かけており、具体的な手順は以下の通りです。

1 時間目

- ・冒頭のモノログを利用したリスニング・スピーキング活動による本課の導入
- ・Expressions の音読や Get More Informed などによる target grammar の導入

2 時間目

- ・宿題として解いてきた Get Ready to Express Yourself や Give It a Try の簡単な解説
- ・Challenge! による実践的スピーキング練習
- ・Listen Up によるリスニング演習

3 時間目

- ・Speak Up によるスピーキング演習
 - ・Write on Your Own によるライティング演習
- 文法問題の解説は解答を配ることで最小限に抑さえ、3 時間のどの授業でも必ず生徒が活動する場面を設けるようにしています。

3 時間目で Write on Your Own よりも先に

Speak Up を行うのは、与えられたトピックについてまずは不完全な英語でもよいので即興で話し、その後同じトピックでパラグラフ・ライティングを行うことによって、話している時になかなか出てこなかった単語を調べたり文法的なミスを直したりして、より正確な英語で表現できるようにするという狙いがあります。

◀ 段階を踏んだライティング指導

Departure I を 1 年間使用して、最も手応えを感じているのはライティング指導です。各レッスンの最終ページにある Write on Your Own ではレッスンで扱ったトピックについてまとまった分量のパラグラフを書く活動が用意されています。入学当初は 2～3 文書くのがやっとだった生徒たちが、今ではスラスラと 80～100 語程度の英文を書いている姿には今までに感じたことのない感動を覚えました。

突然「〇〇について～語で書け」と言われても難しいですが、本校では Speak Up で先にアイディアを出させ、Get Ready to Write でそのアイディアを深めることによって、ある程度パラグラフの内容を準備させてからパラグラフ・ライティングに入るので、生徒は無理なくまとまった分量の英文を書く活動に入っていくことができます。

また、Lesson 1 では「50 語程度」だった条件が、60 語、70 語と徐々に増えていき、教科書の終盤では 100 語程度にまで増えています。これにより、生徒は無意識のうちに英語でたくさん書くことに慣れていき、短い時間でまとまった分量の英文が書けるようになりました。

◀・・外部検定試験などによる成果の検証

ライティング能力の向上は、外部検定試験の結果によっても明らかです。

今年度から、1・2年生の全生徒に GTEC を受験させ、読む力、聞く力、書く力を観点別に測る取り組みを始めました。Departure I を使用している1年生が7月に受験した結果は以下の通りです。

〔観点別グレード 1年生約400名 7月〕

	本校平均	全国平均
トータル	3	3
リーディング	3	3
リスニング	3	3
ライティング	4	3

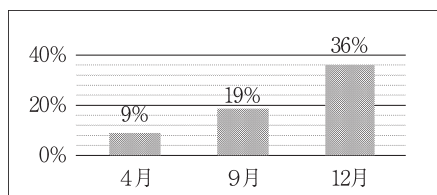
〔ライティングスコア成績分布グレード4以上〕

グレード	単純	累積 (人)
6	0	0
5	22	22
4	318	340

この結果からわかるように、リーディングやリスニングに比べてライティングの方が1つ高いグレードを得ることができました。また、成績分布を見ると約8割の生徒がグレード4を獲得することができており、一部の生徒だけでなく全体的に書く力がついてきていることがわかります。

また4月、9月、12月に生徒に対して意識調査を行いました。下のグラフは、「英語で自分の考えや意見を書くことができますか」という質問に対して「手順や段階を踏めば、80語以上のまとまりのある英文を書くことができる」と答えた生徒の割合の変化を示しています。

調査をするたびに割合が上がっており、生徒た



ち自身にも「書けるようになってきた」という実感が湧いてきていることがわかります。

◀・・スピーキング・リスニングの指導

その他の Departure I の特長として、リスニングで扱った教材を利用してスピーキングの練習につなげることができる点が挙げられます。例えば、レッスン冒頭にテーマに沿ったモノローグがついているので、それを聞いた後で同じテーマに関して自分自身の考えなどを伝え合う活動を通してレッスンの導入を行っています。

また2時間目に行う Listen Up でもレッスンのテーマに関連した英文を聞くので、それを聞く前後に内容に関して意見の交換をさせています。これによって内容がより深く理解でき、その後の定着にもつながることを期待しています。

また、Departure I を利用してスピーキングのパフォーマンステストも行いました。1学期は自作のスクリプトに基づいた「Show & Tell」を行いましたが、即興で自分の考えを表現できるようになってほしいとの願いから、2・3学期は「自由会話」という形式をとりました。授業で扱った内容から2学期は Travel (Lesson 8) などの身近な話題、3学期は Environmental Problems (Lesson 6) など少し難しめの話題から4つずつテーマを選び、生徒にあらかじめ提示しておきます。生徒はテスト当日に誰とグループを組むのか知らされ、くじで引き当てたテーマについて5分間自由に話し合うというものです。テストの準備をする際、生徒たちは関係する語彙や表現がまとまっている巻末の Vocabulary Board を参考にしていました。

＊

新年度から Departure II の使用が始まります。こちらでは Presentation や Debate など、より実践的なコミュニケーション活動が扱われているので、どんな授業ができるのか今からとても楽しみです。（やまもと まきこ・愛知県立刈谷北高等学校教諭）